

2025年4月23日  
名古屋民俗研究会4月例会  
名古屋市秀吉清正記念館  
中村 文香

## 清正伝説と信仰

－変容するイメージと今に受け継がれる人々の清正への思い－

はじめに

加藤清正ときいてイメージするのは？

虎退治 勇猛な武将 築城の名手 治水の神様・・・

現在、清正の名が確認できる最も古い史料は、清正が秀吉から120石を与えられた天正八年(1580)の文書(天理大学付属図書館蔵)であり、秀吉と同郷で、母が秀吉の母(北政所の親類ともされる)の縁者であったとされ、その縁で秀吉に仕えたと考えられるが、それらは江戸時代の伝記類によるものであり、清正の幼少期については実のところははっきりとはわからない。

以下、加藤清正の簡単な紹介である。

### 加藤清正(1562～1611)

永禄5年(1562)、尾張国愛知郡中村(現在の名古屋市中村区中村町)で誕生。幼少より豊臣秀吉に仕え、蔵入地の管理などを行うほか、天正11年(1583)の賤ヶ岳の戦いをはじめ、秀吉の天下統一に関わる合戦に参加して武功をあげ、天正16年(1588)には肥後国(現在の熊本県)の北半分19万5000石を与えられ、隈本(のち熊本と改称)城主となる。二度の朝鮮出兵にも参加し、朝鮮半島を破竹の勢いで進軍し、猛将として恐れられた。

秀吉の死後は徳川家康に接近し、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いでは、九州における東軍の中心として戦い、戦後その功績により肥後一国54万石の領主となる。

豊臣家と徳川家の融和に努め、慶長16年(1611)3月、二条城における家康と豊臣秀頼との会見に立ち会う。

同年5月、領国への帰路発病し、6月24日、熊本城内で50歳の生涯を閉じた。

清正は勇猛な武将として知られており、「賤ヶ岳の七本槍」や「虎退治」のエピソードが有名だが、これらの逸話は清正の死後に生まれたもので、史実をベースにしながらも、大きく脚色や創作が加えられている。こうした清正のイメージは、講談や浄瑠璃、歌舞伎などを通して浸透し、「清正伝説」として根付いていった。

そして、清正にはもう一面、「清正公」という神としての顔がある。清正公信仰は、清正の領地であ

った熊本で生まれ、江戸から明治にかけて何度かのブームを経て全国に広がり、いまに伝わる信仰である。

今回、加藤清正にまつわる伝説や清正公信仰にまつわる場所などを紹介しながら、清正のイメージが作られた背景と、人々の清正への思いが時代によって変容し、受け継がれていく様子を探った。

#### <清正伝説の誕生>

- ・清正の石曳 続撰清正記に詳細な記述 尾張名所図会 清正石
- ・地震加藤 指月伏見城 →当時、清正の伏見屋敷はまだない
- ・二条城の会見 徳川方による毒殺説→のちに浄瑠璃の演目に
- ・尾張・津島に残る清正伝説  
    妙延寺 清正公草紙掛之松、  
    清正公社 清正寓居地、井戸に落ちた子を助ける、盗賊退治の伝説にまつわる鬼面、鬼祭り
- ・賤ヶ岳七本槍 『絵本太閤記』等で人気武将の一人に
- ・虎退治 虎狩は清正に限ったことではないが、清正の虎狩りだけが有名に

勇猛な武将・加藤清正のイメージが浸透、芝居や浮世絵で人気を博す

→実際にはなかったと思われる有名武将との一騎打ちや妖怪退治の伝説が次々に生まれていく

Ex.小牧・長久手の戦いにおける本田忠勝との一騎打ち、四国焼山での蛇の化物退治

→史実に脚色や創作が加えられてさまざまな伝説が生まれていく

戦国武将・加藤清正は、一方で「清正公(せいしょうこう)」という神としての顔を持つ。

#### <清正公信仰>

清正公信仰とは、加藤清正を神として祀り、信仰の対象としたものである。清正自身が熱心な日蓮宗の信徒であったことから日蓮宗寺院を中心に全国に展開した。清正没後 100 年となる 18 世紀前半までは肥後国（現在の熊本県）における局地的な信仰であったが、文化 7 年(1810)の清正 200 年遠忌の頃から、肥後はもちろんのこと、江戸、尾張、京都などを中心に全国的な流行を見せた。そのご利益は様々で、武運長久、開運出世、病気平癒、水難除け、盗難除けなどが祈願された。

安政 5 年(1858)にコレラが大流行すると、コレラに「虎烈刺」など「虎」の字があてられたことから、清正の虎退治の逸話が注目され、疫病退散の神としても信仰され、清正の絵姿や手形の札が寺院のほか各所で版行された。

近代に入ると、明治政府の富国強兵政策と結びつき、清正の忠臣・軍神としてのイメージが明治政府に高く評価され、教科書や唱歌、新聞などを媒体として国民に広まり、各地に清正を祀る神社が建てられ、顕彰碑や銅像が作られた。

## 清正の死と加藤家の改易

慶長 16 年(1611)清正没 息子の忠広が跡を継ぐも、寛永 9 年(1632)加藤家改易  
細川忠利の熊本城入城 以後、細川家が肥後を統治

- ・浄地廟(加藤清正御廟所)
- ・本妙寺

清正が父の菩提寺として建立し、清正や加藤家からの信仰を受けた本妙寺は、加藤家の改易後、  
清正の墓廟として、清正への信仰を高めていく  
→肥後国において清正公信仰が萌芽

- ・本圀寺 戦後、六条から山科の現在地へ移転  
開運門(赤門)、清正廟(真生墓廟)：清正の生前墓を娘の瑤林院が墓廟に
- ・池上本門寺  
此経難持坂、清正公供養塔
- ・妙行寺 名古屋城築城の際、妙行寺を自身の生誕地に移して再建したと伝わる
- ・覚林寺 「白金の清正公さま」 東都司馬八景  
清正ゆかりとされる日延上人  
勝守 出征兵士の信仰

文化 7 年(1810) 清正 200 年遠忌 清正公信仰が各地へ広がり流行

清正公のご利益 ほとんどが現世利益を願ったもの

- 武運長久、開運、勝利、厄除け、  
盗難除け  
水難除け、河童除け  
芸事上達
- 病氣平癒(コレラ、ハンセン氏病、目の病氣)  
清正公のお札 コレラ除け 「虎烈刺」  
清正の手形 厄除け

## 明治時代

清正の軍神・忠臣としての側面を明治政府が評価 富国強兵  
新聞・唱歌・国定教科書  
各地に清正公社、銅像

神仏分離令

- ・明治 4 年(1871)、熊本城内に錦山神社創建。本妙寺に代わり、清正公墓廟を神道様式で祀る。のち加藤神社に改称。近代の清正公信仰の中心地に

## 現代の清正信仰

戦後、清正公信仰は下火に

今もゆかりの日蓮宗寺院を中心に信仰

熊本県での清正人気 清正公（せいしょうこ、せいしょこ）さん

- ・清正井（明治神宮御苑） 開運の「パワースポット」
- ・池上本門寺清正公堂 令和6年再建

## おわりに

- ・清正の死後生まれる逸話や伝説
- ・清正の日蓮宗信仰→日蓮宗寺院での清正公信仰
- ・娘の瑤林院の嫁いだ紀州徳川家。八代将軍徳川吉宗による『清正記』閲覧。
- ・文化7年(1810)の清正200年遠忌の頃から全国的な清正公信仰 庶民からの信仰
- ・明治時代の富国強兵策
- ・今も日蓮宗寺院のほか、熊本で「せいしょこさん」として親しまれる

## <参考文献>

湯田栄弘『増補再販 仰清正公 神として人として』2002年 加藤神社社務所

田中青樹「民衆の信仰としての清正公信仰」（『名古屋市博物館研究紀要』第23巻）2000年 名古屋市博物館

福西大輔『清正公信仰 -人を神に祀る習俗-』2022年 岩田書店